

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報14

1996年度

1997年11月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報14

1996年度

1997年11月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

## 序

1996年度は農学部・薬学部動物実験施設と環境理工学部校舎の建設に伴う事前の発掘調査を行いました。いずれも津島キャンパスにおけるものですが、前者の調査では弥生時代前期の水田畦畔など重要な遺構のひろがりを見とめ、これまで遺構の密度が比較的希薄だと考えられてきたキャンパス南西部にも今後十分な注意をはらっていく必要があることを示しました。また後者の調査地を含むキャンパス東北部の一部は、これまでの調査で縄文時代の遺構・遺物がとりわけ豊富な地域であることが分かっていました。今次の発掘の結果、予想にたがわず縄文時代後期の住居跡や、溝、多数の小穴などを確認し、縄文集落の全体像の復元へさらに一歩近づくことができました。

1996年度には、本センター自己評価委員会において、大学基準協会の相互評価にかかわる点検・評価報告書を作成しました。また、本センターは1997年11月に10周年を迎えますが、センター運営委員会では設立以来の調査研究事業の成果と問題点を点検し、10周年以降の将来構想を検討しました。組織の運営は、日々の仕事や定期的実施しなければならない作業に追われ、ともすれば長期的な展望を軽視する傾向におちいりがちです。センターも例にもれず相次ぐ発掘と報告書作成で多忙をきわめています。今回、設立以来の事業経過をあらためて整理しなおし、関係委員会で委員各位のさまざまな観点からのご意見・ご提言をいただいたことは、センターのこれからの運営にとってたいへん有益なことであったと信じます。

発掘調査の実施でご協力いただいた各機関・各位にお礼申し上げますとともに、本センターの運営と事業のあり方について建設的なご意見とご指導をたまわった管理委員会・運営委員会・自己評価委員会の委員各位にも、深甚の謝意を表する次第です。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長

稲 田 孝 司



## 例 言

- 1 本報告は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において1996年4月1日から1997年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査と保存、および活動成果をまとめたものである。
- 2 岡山大学構内の埋蔵文化財の調査に際しては、設定基準を次のように定めた。
  - 1) 津島地区では、国土座標第Ⅴ座標系 ( $X = -144,500\text{m}$   $Y = -37,000\text{m}$ ) を起点とし、真北を基軸とした構内座標を設定した。一辺50mの方形区画である。また、同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と同南地区に二分する (図13)。
  - 2) 鹿田地区では、国土座標第Ⅴ座標系 ( $X = -149,800$   $Y = -37,400\text{m}$ ) を起点とし、座標軸を  $N 15^{\circ} E$  に振ったものを基軸とした構内座標を設定した。地区割りは一辺5mの方形を用いる (図15)。
  - 3) 本文中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は真北を、他は磁北を用いている。
- 3 岡山大学構内の遺跡の名称は、周知の遺跡の場合はそのまま踏襲する。津島地区構内については、全域を「津島岡大遺跡」と総称する。他地区は任意の名称で仮称する。
- 4 調査名称は、「発掘調査」に分類したものについては、各遺跡ごとに調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘調査」「立会調査」に分類したものは、任意の名称を用いる。発掘調査のうち、小規模で、試掘調査から連続して調査したものは、「試掘調査」に分類する。
- 5 「発掘調査」についての記述は、現段階における概要であり、詳細は正式報告に依って頂きたい。第16次調査については、本年報での記述を正式報告にかえる。
- 6 表に記載した所属部は、原則として各学部の頭文字を略号として用いている。
- 7 本文・目次・挿図・写真などで使用の調査番号は表1と一致する。
- 8 突帯文土器が出土する時期を従来は縄文晩期・突帯文期と仮称していたが、本年報から弥生時代早期と呼ぶ。
- 9 本文は岩崎志保・山本悦世・横田美香が分担執筆し、執筆者名を末尾に記した。
- 10 鹿田遺跡出土種子の分析を沖陽子氏 (岡山大学環境理工学部) に依頼し、その結果を別編として掲載した。
- 11 編集は稲田孝司センター長の指導のもとに、横田が担当した。
- 12 本年報に掲載の津島地区の地形図は岡山市発行の1/25000の地図を複製したものである。

# 岡山大学構内遺跡調査研究年報14 1996年度

## 目 次

第1章 1996年度岡山大学構内遺跡調査報告	1
第1節 調査の概要	1
第2節 発掘調査	1
1 津島岡大遺跡第16次調査〈農・薬学部動物実験施設〉	1
2 津島岡大遺跡第17次調査〈環境理工学部校舎新営予定地〉	9
第3節 立会調査	15
(1) 津島地区	15
(2) 鹿田地区	16
第2章 1996年度普及・研究・資料整理活動	22
1 資料整理	22
2 分析依頼	22
3 刊行物	22
4 調査員の活動	22
5 日誌抄	24
6 1996年度までの遺物保管状況	25
7 遺物の保存処理	25
8 展示会	27
第3章 岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項	29
第1節 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの内部規程	29
1 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程	29
2 岡山大学埋葬文化財調査研究センター管理委員会規程	30
3 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程	31
4 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規程	32
第2節 1996年度埋蔵文化財調査研究センター組織	33
1 センター組織一覧	33
2 管理委員会	33
3 運営委員会	34
4 自己評価委員会	34
第3節 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター関係委員会報告	35
1 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会報告	35
2 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの現状と将来構想について	42
第4章 1996年度活動報告のまとめ	48
附 表	49
別 編	63

## 挿 図 目 次

図 1	津島岡大遺跡第16次調査地点位置図	1
図 2	津島岡大遺跡第16次調査A地点土層断面図	2
図 3	津島岡大遺跡第16次調査土坑 2 平・断面図	4
図 4	津島岡大遺跡第16次調査B地点調査区平面図	5
図 5	津島岡大遺跡第16次調査B地点土層断面図	5
図 6	津島岡大遺跡第16次調査B地点遺構全体図	6
図 7	津島岡大遺跡第17次調査地点位置図	9
図 8	津島岡大遺跡第17次調査土層断面図	10
図 9	津島岡大遺跡第17次調査縄文時代後期の遺構	12
図10	津島岡大遺跡第17次調査弥生前期～古墳時代の遺構	13
図11	調査⑫⑬土層断面図	16
図12	調査⑬遺物実測図	17
図13	調査⑲土層柱状図	17
図14	津島地区全体図	19
図15	今年度の調査【1】津島地区	20
図16	今年度の調査【2】鹿田地区	21
図17	展示会会場見取り図	27
図18	アンケート集計結果	28
図19	構内の遺跡密度概略図	46
図20	1996年度までの調査地点【1】津島地区	61
図21	1996年度までの調査地点【2】鹿田地区	62

## 写 真 目 次

写真1	津島岡大遺跡第16次調査A地点南壁土層断面（北から）	2
写真2	津島岡大遺跡第16次調査土坑2完掘状況（東から）	3
写真3	津島岡大遺跡第16次調査土坑1・2土層断面（左：東から，右：西から）	4
写真4	津島岡大遺跡第16次調査B地点南壁土層断面（北から）	5
写真5	津島岡大遺跡第16次調査溝1完掘状況（南から）	5
写真6	津島岡大遺跡第16次調査5層上面検出状況（南から）	7
写真7	津島岡大遺跡第16次調査溝4内ピット断面（西から）	7
写真8	津島岡大遺跡第16次調査5層上面遺構（南東から）	7
写真9	展示会看板	27
写真10	鹿田遺跡第6次調査出土種子(1)	64
写真11	鹿田遺跡第6次調査出土種子(2)	65
写真12	鹿田遺跡第6次調査出土種子(3)	66

## 表 目 次

表1	1996年度調査一覧	18
表2	埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要	25
附表1	1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）	49
附表2	1995年度以前の構内主要調査（1983～1995年度）	50
附表2—(1)	発掘調査	50
附表2—(2)	試掘調査など	52
附表2—(3)	立会調査	54
附表3	埋蔵文化財調査室刊行物	59
附表4	埋蔵文化財調査研究センター刊行物	59